



学校だより 1月号

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakawada/>

「成長する一年に」

校長 高嶋 聡

2024年は、元旦に能登半島で震度7の大地震という悲しい出来事と共にはじまりました。この地震によりお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。相次ぐ余震と寒さの中、不安が募る状況が続いていると思いますが、一日も早い復興をお祈りしています。

14日間の冬休みを終え、新しい年の学校生活が始まりました。保護者の皆様には、旧年中は本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、誠にありがとうございました。本年も、中和田小の子ども達の健やかな成長のため、教職員一丸となって教育活動に邁進してまいります。引き続き、ご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

今年度も残り50日間（6年生は45日間）となりました。1月は「行く」、2月は「逃げる」、3月は「去る」と言われているように、この3か月はあっという間に過ぎていってしまいます。今の学年のまとめをしたり、次の学年に上がる準備をしたり、とても大切な時期ですので、一日一日の学習や生活を大切に、充実した日々になるように支えてまいります。

さて、一年の中では、目標やめあてをもつ機会がいくつかあります。4月には「今年度はこうしよう。」と新しい学年での目標を考えます。次は10月に「前期を踏まえて、後期はこうしよう。」と新たな目標を考えます。そして、年の始まりである1月には、「今年はどうしよう。」というその年の目標をもつのではないのでしょうか。1月の目標には、2つの意味合いがあると思います。一つは、新年にあたり、少し遠くの大きな目標に向けて「今年はどうしていこう。」という目標です。もう一つは、「次の学年に向けて、あと3ヶ月何を頑張っていこうか。」という目標です。目標をもち、先を見据えながら計画的に行動するのと、何も考えずその日暮らしで日々をなんとなく過ごしていくのとでは、自分の可能性の広がり方が全然違ってきます。学年が上がるまでのこの3か月をしっかりと目標をもって過ごし、あと一歩成長し、気持ちよく進級してほしいと思います。年の初めに子ども達が少し先の夢や希望をもつことは、これからの将来を考えると、とても大事なことだと思います。夢や希望があるからこそ、努力を継続していくことができるのだと思います。まだ少し先の目標が見つけれない子には、この1月を考える機会にしてほしいと思います。

さて、2024年の干支は辰ですが、本来の干支は十干と十二支を組み合わせた60種類あり、2024年の正式な干支は十干の「甲」と十二支の「辰」が組み合わせた「甲辰（きのえたつ）」ということです。「甲」は十干の始まりにあたり、生命や物事の始まりを意味するそうです。「辰」は草木が伸長し、形が整い、活気にあふれている様子を表すそうです。また、辰は竜（龍）のことであり、十二支の中で唯一の空想上の生き物です。龍は古代中国では身近な生き物で、実在すると考えられ、権力の象徴とされており、縁起のよい動物とされています。そのため架空の生き物ではありますが、十二支の中に含まれているようです。

調べてみると、「甲辰」は「春の日差しが、あまねく成長を助く年」となり、成長を助ける春の日差しは、表に出ているものばかりではなく、日ごろ隠されていたものにまで寛大に広く注がれ、成長や変化を促すことを表しているそうです。これまでの辰年での出来事を集めてみると、

- 1964年(昭和39年)：「東京オリンピック」開催。オリンピックに合わせて「東海道新幹線」が開業。
- 1988年(昭和63年)：「青函トンネル」「瀬戸大橋」「東京ドーム」など大型建造物が竣工。
- 2000年(平成12年)：「2,000円札」発行。
- 2012年(平成24年)：「東京スカイツリー」が開業。

など、なかなか大きな成長や変化といえるものが多くあります。

辰年の2024年、中和田小の子ども達一人ひとりが大きく成長する一年でありますように。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

中和田小学校 教職員一同